



# 道しるべ

第79号

撮影：森 正廣 2020.9.29

## 「上向き・下向き」

少しだけ、カメラをします。  
 右手でグリップを握り、左手でボディの底面とレンズを下から支える。  
 右手の人差し指は、シャッターボタンに軽く添えるようにして、ぶれないように脇を占めて、ファインダーを覗いて先ずは正面を「アイレベル」でシャッターボタンを押す。  
 基本中の基本ですね。  
 過去の写真をあらためて見てみると、下から上に向かっての構図が多いような気がします。

人間は、上を向くか下を向くかの姿勢だけで、考えが違ってくるようです。  
 空を見上げて「ん～これからタイヤシーズン、どのくらい伸びるだろうか？新たな二トン車の仕事が、新たな四トン車の仕事が、車輛は足りるだろうか？」不思議と明るい話題が。  
 今度は足元の地面を見てみると「あの現場が10月で終わり、この現場は契約時間の短縮、あのお客様はチョット...」不思議と暗くなる話題が。

人間は頭が重いから、どうしても下を向きがちになる。そして転ばないように危険はないかと探して歩くから、どうしても下向きがちになる。  
 しかし、どうしたら良いか？どうしたらもっと儲かるか？を考えるには上向き姿勢から知恵が出てくる。

一日3回、朝に1回、昼に1回、夜に1回、空を見上げてみよう。  
 きっと、良いアイデアが出ますよ。



「(^^♪ 見上げてごらん夜の星を♪ 小さな星の小さな光が(^^♪♪♪ ささやかな幸せをうたってる♪♪(^^♪♪♪)」

坂本九 「見上げてごらん夜の星を」

令和2年10月  
 森 正廣

# ただ運ぶだけなら . . .

配達は、便利で品質が高いからこそ、お金を払ってまでお願いする仕事です。

誰にでもできる仕事ならば、誰かにすぐに取りられてしまうことでしょう。

厳しい表現になりますが、いつまでもただ運ぶだけなら、いつのまにか「タダの方がよい」と思われてしまうかも知れません。



運送会社が時間通りに安全で届けることは、お客様や社会（世間）から見れば「あたりまえ」であり、品質にも取り組んだ結果により「ありがとう」（プラスの評価）を得られやすくなります。

運送会社の安全があたりまえと思われることは、お客様から運送会社が**安全のプロ**として認知されている点と、安全のプロに対する世間からの賛辞も含まれていると思います。

しかしながら、運送会社が「どのような安全の取り組みにより運送をしたのか」との道中の経過がお客様には見えないことから、安全には優劣がつきにくく、「予定どおりに到着した」との結果のみが見えることも、安全があたりまえと思われる要因であると考えます。



運送会社においても、お客様からの運送依頼があたりまえと感じていたならば「ありがとう」の気持ちを持つべきであり、お客様が喜ばれる「あたらしい」ことで「ありがとう」と言われることにも挑戦すべきでしょう。

価格が安いから運ばせてもらえるのではなく、**価値が高いから選ばれる**ようにしましょう。

ドライバーの品質（付加価値）を高めることで、会社の売上が向上します。

ドライバーの安全（事故防止）を高めることで、会社の利益が向上します。

例えば付加価値といわれる作業も、ルールの共通認識により全員が同じサービスとして提供できれば「有償価値」に格上げができます。

そのような有償価値への格上げ活動において、実践する対象項目の選定には「三つのできる」を優先するとよいでしょう。

## 「三つのできる」

- 1.誰にでも簡単に「できる」こと
- 2.新たなコストを掛けずに「できる」こと
- 3.全員で「できる」こと

具体的には下記の「三つの行動」を厳守しましょう。

- 1.あいさつ
- 2.身だしなみ
- 3.車輪止め



他がやっていないからやらないではなく、  
**誰もやっていないからこそやりましょう**